

研究・調査報告書

報告書番号	担当
57	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Lifestyles, environmental and phenotypic factors associated with lip cancer: a case-control study in southern Spain. 生活習慣、環境因子および表現形因子と口唇がんの関連について：南スペインにおけるケースコントロールスタディから	
執筆者 Perea-Milla Lopez E, Minarro-Del Moral RM, Martinez-Garcia C, Zanetti R, Rosso S, Serrano S, Aneiros JF, Jimenez-Puente A, Redondo M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Br J Cancer, 2003; 88 (11): 1702-7.	
キーワード 口唇がん、アルコール摂取、喫煙、太陽光曝露、啞えタバコ	
要旨 目的：口唇がんに関連する要因を探った。 方法：Granada（スペイン・アンダルシア地方）でのケースコントロールスタディ。症例は、地域がん登録にて1987年から1989年に口唇重層扁平上皮がんと診断・登録された20歳から70歳までの男性患者105名を用いた。年齢で階層化した239名を地域から無作為に抽出して対照として、多変量によるロジスティック回帰分析を行った。 結果：生涯の累積喫煙量とアルコール摂取量が危険因子であることが分かった。アルコール摂取と喫煙習慣（啞えタバコ）には交絡を認めた（OR=23.6, 95%CI 3.9-142.0）その他の危険因子としては、裸眼（OR=3.5, 95%CI 1.5-8.0）、若年期の太陽光曝露量および屋外労働における累積太陽光曝露量（OR=11.9, 95%CI 1.3-108.9）、そして太陽光曝露に対する皮膚反応（Fitzpatrick値）が考えられた。その他の交絡として、皮膚反応と散発性疣の既往歴が考えられた（OR=4.4, 95%CI 1.01-19.1）。 結論：口唇がんは、表現形、太陽光に対する皮膚反応、累積および若年期の太陽光曝露量、喫煙量およびアルコール摂取量と関連性があると考えられる。また、低学歴も関連している。累積喫煙量とは無関係に、啞えタバコは口唇がんリスクの目安と考えられる。	